

平成 28 年度 海事問題調査委員会報告

# 「マイクロプラスチック問題について」

海事問題調査委員会 委員長 増田 恵 (東船大 N16)

海洋会のボランティア活動のひとつにビーチクレンジングアップがあり、「2016 年秋のビーチクレンジングアップ 記 北沢昌永 (東船大 N3)」が 2017 年 1 月号に掲載されています。『(中略) 浜辺に散乱しているゴミの多さには不快でした。(中略) 海の彼方から流れ寄せたとされる大量のゴミも見られました。(中略) さて、海と海岸の環境保全については職者らによって多々論じられていますが、要は「百の議論より目先の一つのゴミを拾うこと、ゴミを捨てないこと」の実戦であります。海をビジネスの場とし、また、そこに職業を持ち、生活の糧を得ている海事関係者は特に心すべきことではないでしょうか。』という記述があります。

会誌「海洋」の読者も、この「海の大量のゴミ」への関心は大きなものがあると思います。

特に、プラスチックゴミは、世界の海を漂って一部は海岸に流れ着き、漂着ゴミとなり問題になっています。このプラスチックは、世界で 1 年間に 3 億トン生産され、世界の石油生産量の 8% に相当するそうです。プラスチックは、様々なところで使われています。また、全世界で毎年 800 万トンのプラスチックゴミが海に流入していると推定されるそうです。厄介なことに、プラスチックは、一部は紫外線や波の力で細かい破片となり、海を漂っており、いくら小さくなくても分解してなくなることがないそうです。しかも、小さなプラスチックは、海の生き物がえさと間違えて食べてしまい、海の生態系への影響が心配されています。

この小さなプラスチックゴミは、直径 5 ミリ・メートル以下のものが「マイクロプラスチック」とよべます。2015 年の G7 でも、マイクロプラスチックの問題が、世界的課題だと指摘されました。

海事問題調査委員会では、委員から提案のあった幾つかのテーマの中から、「マイクロプラスチック問題」を平成 28 年度のテーマとして取り上げました。

海上勤務を経験している者の立場からは、「あれだけ船内で厳しくゴミの分別を徹底しているのにどうしてなのか!!」と言う疑問があると思います。近年、各メディアで報道される「マイクロプラスチック問題」とは何なのかを正確に理解するために資料を集めました。

その結果、「マイクロプラスチック問題」は、船舶起源の海洋汚染とは全く性格を異にする、我々の日常生活の中で、無くてはならない便利なプラスチック製品が海洋に流出した結果、地球規模で発生している「好ましからざる」深刻な問題であることが判りました。

平成 28 年度の実地調査報告は、各委員で分担して執筆・取り纏めを行い、その概要は以下の通りです。報告は本誌 88 頁～106 頁に掲載していますのでご一読願います。

1. はじめに
2. 海洋ごみによる汚染の現状
3. 法規制の現状
4. 海洋ごみによる被害
5. マイクロプラスチック問題について
6. まとめ

会員諸兄の参考になれば幸いです。



ビーチで拾ったゴミを分別・記録する (2017 年海洋 1 月号 秋のビーチクレンジングアップより転載)